

平成30年度第2回曾於保健医療圏地域医療構想調整会議 開催結果

日 時：平成31年2月27日（水）18:00～19:15

場 所：曾於医師会立病院 講義室

出席者：委員14名（代理2名を含む）、傍聴者26名（医師会関係者を含む）、事務局7名

1 議題

(1)報告

- ・ 県地域医療構想調整会議（第1回）開催結果

(2)協議

- ①すべての有床医療機関の「2025年に向けた計画」の取扱い
- ②1年以上の非稼働病棟の取扱い

2 協議結果

(1)すべての有床医療機関の「2025年に向けた計画」の取扱い

県調整会議における議論を踏まえて協議を進めることについて了承が得られた。

(2)1年以上の非稼働病棟の取扱い

平成30年度第1回調整会議において御説明いただいた2医療機関及び調査に御回答いただいた2医療機関について、病棟維持の必要性があると判断され、再稼働の計画が生じた際には調整会議へ事前に報告してもらうことで合意がなされた。

3 主な意見等

- ・ 鹿児島市と違い郡部では医師一人で医療機能は変わってくる。医師がいないと病床機能を維持できない。医師が足りないから継続してみんなで努力しているところである。郡部では、手術ができる医師が増えれば医療体制は変わってくる。そのための施策が残されていないといけない。医師1人で全然中身が変わってくるものが反映していけるような形であってほしい。
- ・ 厚生労働省で1月30日に開催されたワーキンググループのなかで、東北大学の藤森先生が、特徴が似た構想区域を類型化することによって、地理的社会的要因による医療供給体制を考えるということを言われている。都会と地方で環境は違うので、同じ水準に上げていかというと、問題である。
- ・ 今までの病床機能報告では、回復期が、実態と差がありすぎて持っていきようがなかった。実態に沿って見ていければ実態に合ったようなものになるのではないか。
- ・ 今までも急性期のなかに回復期が入っている、慢性期に回復期が入っているというようなことは話題になっており、それは問題であるというところはあったと思う。ある意味少しそれが解消されるのかもしれない。